

田中 克周 議員

外国人児童・生徒に対する 取り組み状況は

Q 問 小中学校における日本語学級の数及びその設置基準はどのようになっているか。

A 答 袋井東・袋井北・高南小学校及び袋井中学校に教員を配置し、日本語学習や教科学習の支援をしている。外国人児童・生徒の在籍数に応じて県教育委員会が教員の配置を決めている。

Q 問 相談員配置による成果及び問題点は何か。

A 答 外国人児童・生徒教育推進委員会を設置し、推進センター校の設置、相談員の効果的な運用の研究等を始めた。また、以前よりも学校に協力的な外国人保護者が増えてきた。しかし、現状の相談員の人数では充分とはいえず、必ずしも必要な支援ができてはいない。

Q 問 独自の教材及び指導法を開発すべきと考えるがどうか。

A 答 高南小学校に相談員1名が常駐し、教材開発や指導方法の研究、保護者あての文書の翻訳をしており、その情報を各学校に提供している。



外国人サポーター1名が常駐する高南小学校

浅田 二郎 議員

住民の税金でワーキングプアを 出さな

Q 問 公共事業・サービスの民間委託が増えているが、委託先の賃金や労働条件を適正なものにするため、契約に関する「指針」「基準」などを策定・見直すことが必要では。

A 答 公共工事の調達を従来の価格だけの競争から、価格と品質の両面を評価して落札者を決定する総合評価落札方式を19年度に導入した。また、労務費の不当な圧縮等によるダンピング受注の防止、排除のための低入札価格調査などの制度を設けた。

市の自衛隊訓練に対する対応は

Q 問 市内で自衛隊富士学校の地形研究訓練がおこなわれていると聞いたが、「そのけ体質」の自衛隊の迷彩服での集団訓練は、平穏な市民生活になじまない。

市の認識、基本的スタンスと対応は。

A 答 この訓練は、地図の判読や地形研究で、地図上で定めたルートを実際に歩いて検証し、実践経験を積むためのもので、訓練に適した地形、周辺を展望できる場所であることが会場の選定理由と伺っている。災害時、自衛隊の果たす役割を考え、協力すべきと判断する。



自衛隊も参加した昨年12月の防災訓練



市政に対する 一般質問

よりよいまちづくりを目指して

